

高知工業高等専門学校	開講年度	平成31年度(2019年度)	授業科目	電気回路Ⅱ
科目基礎情報				
科目番号	R4039	科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	SD ロボティクスコース	対象学年	4	
開設期	前期	週時間数	2	
教科書/教材	教科書:早川・松下・茂木「電気回路(1) 直流・交流回路編」コロナ社, 安倍・柏谷・亀田・中場「電気回路(2) 回路網・過渡現象編」コロナ社			
担当教員	吉田 正伸			
到達目標				
1.	三相交流回路における、各部の電圧・電流および電力が計算できる。			
2.	二端子対回路の特性が伝送行列などを使って計算でき、等価回路を求めることができる。			
3.	各種フィルタ回路の周波数特性を説明することができる。			
ループリック				
三相交流	理想的な到達レベルの目安 三相交流回路の回路構成を自在に変換でき、各部の電圧・電流および電力が計算できる。	標準的な到達レベルの目安 三相交流回路における、各部の電圧・電流および電力が計算できる。	未到達レベルの目安 三相交流回路の基本回路構成における、各部の電圧・電流および電力が計算できない。	
二端子対回路	二端子対回路において、伝送行列はか複数の各パラメータを自在に変換して計算でき、回路の諸特性を求めることができる。	二端子対回路の特性がインピーダンス行列、アドミタンス行列、伝送行列を使って計算でき、等価回路を求めることができる。	二端子対回路の特性がインピーダンス行列、アドミタンス行列、伝送行列を使って計算でき、等価回路を求めることができない。	
フィルタ回路	低域・高域・帯域フィルタの役割と分類について説明でき、定K形フィルタの特性について計算できる。 。	低域・高域・帯域フィルタの役割と分類について説明できる。	低域・高域・帯域フィルタの役割と分類について説明できない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	電気基礎(2年)、電気回路I(3年)で学習した電気回路をさらに発展させ、三相交流、二端子対回路網、フィルタ回路に関する考え方を身につける。これらの電気回路の基礎的な考え方方が想起でき、計算することができる力を身につける。			
授業の進め方・方法	「現象」を頭でイメージしながら、計算問題に取り組んで欲しい。本授業には、電気基礎(2年)、電気回路I(3年)、工業数学(4年)での学習内容の理解が必須である。			
注意点	試験の成績を70%、平素の学習状況等(課題・小テスト・レポート等を含む)を30%の割合で総合的に評価する。学期毎の評価は中間と期末の各期間の評価の平均、学年の評価は前学期の評価とする。技術者が身につけるべき専門基礎として、到達目標に対する達成度を試験等において評価する。			
授業計画				
		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	三相交流回路[1-6]: 対称三相交流起電力とインピーダンスの結線法(△接続・Y接続)における、相電圧、線間電圧、相電流、線電流とそのベクトル表現、ならびに有効・無効・皮相電力と非対称三相交流回路、また多相交流回路とブロンデルの定理、回転磁界について学ぶ。	相電圧、線間電圧、相電流、線電流とそのフェーザ表現が説明できる。
		2週	三相交流回路[1-6]: 対称三相交流起電力とインピーダンスの結線法(△接続・Y接続)における、相電圧、線間電圧、相電流、線電流とそのベクトル表現、ならびに有効・無効・皮相電力と非対称三相交流回路、また多相交流回路とブロンデルの定理、回転磁界について学ぶ。	対称三相交流起電力とインピーダンスの結線法(Y接続)が記述できる。
		3週	三相交流回路[1-6]: 対称三相交流起電力とインピーダンスの結線法(△接続・Y接続)における、相電圧、線間電圧、相電流、線電流とそのベクトル表現、ならびに有効・無効・皮相電力と非対称三相交流回路、また多相交流回路とブロンデルの定理、回転磁界について学ぶ。	対称三相交流起電力とインピーダンスの結線法(△接続)が記述できる。
		4週	三相交流回路[1-6]: 対称三相交流起電力とインピーダンスの結線法(△接続・Y接続)における、相電圧、線間電圧、相電流、線電流とそのベクトル表現、ならびに有効・無効・皮相電力と非対称三相交流回路、また多相交流回路とブロンデルの定理、回転磁界について学ぶ。	対称三相交流起電力とインピーダンスの結線法(△Y接続の組合せ)が記述できる。
		5週	三相交流回路[1-6]: 対称三相交流起電力とインピーダンスの結線法(△接続・Y接続)における、相電圧、線間電圧、相電流、線電流とそのベクトル表現、ならびに有効・無効・皮相電力と非対称三相交流回路、また多相交流回路とブロンデルの定理、回転磁界について学ぶ。	不平衡三相交流起電力とインピーダンスの結線法が記述できる。
		6週	三相交流回路[1-6]: 対称三相交流起電力とインピーダンスの結線法(△接続・Y接続)における、相電圧、線間電圧、相電流、線電流とそのベクトル表現、ならびに有効・無効・皮相電力と非対称三相交流回路、また多相交流回路とブロンデルの定理、回転磁界について学ぶ。	対称三相交流回路の有効電力、無効電力、ブロンデルの定理が説明できる。
		7週	前期中間試験	
		8週	二端子対回路網1 [7-12]: 二端子対回路の行列表現とパラメータ、等価回路について学ぶ。	二端子対回路の入出力表現が理解でき、インピーダンス行列、アドミタンス行列が説明できる。
	2ndQ	9週	二端子対回路網1 [7-12]: 二端子対回路の行列表現とパラメータ、等価回路について学ぶ。	縦続行列、ハイブリッド行列が説明できる。

		10週	二端子対回路網1 [7-12] : 二端子対回路の行列表現とパラメータ、等価回路について学ぶ。	縦続接続回路の四端子定数を計算できる。
		11週	二端子対回路網1 [7-12] : 二端子対回路の行列表現とパラメータ、等価回路について学ぶ。	二端子対回路の伝送的性質(反復パラメータ)が説明できる。
		12週	二端子対回路網1 [7-12] : 二端子対回路の行列表現とパラメータ、等価回路について学ぶ。	二端子対回路の伝送的性質(影像パラメータ)が説明できる。
		13週	二端子対回路網2 [13-14] : 低域・高域・帯域フィルタの特性について学ぶ。	低域・高域・帯域フィルタの役割と分類について説明できる。
		14週	二端子対回路網2 [13-14] : 低域・高域・帯域フィルタの特性について学ぶ。	定K形フィルタの特性について計算できる。
		15週	前期末試験	
		16週	電気回路IIの総まとめを行う。	電気回路IIで扱った重要事項が説明できる。

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	電気・電子系分野	正弦波交流の特徴を説明し、周波数や位相などを計算できる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6
			平均値と実効値を説明し、これらを計算できる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6
			正弦波交流のフェーザ表示を説明できる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6
			R、L、C素子における正弦波電圧と電流の関係を説明できる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6
			瞬時値を用いて、交流回路の計算ができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6
			フェーザ表示を用いて、交流回路の計算ができる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6
			インピーダンスとアドミタンスを説明し、これらを計算できる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6
			キルヒホッフの法則を用いて、交流回路の計算ができる。	4	前1,前2
			合成インピーダンスや分圧・分流の考え方を用いて、交流回路の計算ができる。	4	前1,前2
			交流電力と力率を説明し、これらを計算できる。	3	前6
			RL直列回路やRC直列回路等の単工ネルギー回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。	3	後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11
			RLC直列回路等の複工ネルギー回路の直流応答を計算し、過渡応答の特徴を説明できる。	3	後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11
			重ねの理を用いて、回路の計算ができる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
			網目電流法を用いて回路の計算ができる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
			節点電位法を用いて回路の計算ができる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
			テブナンの定理を回路の計算に用いることができる。	3	前8,前9,前10,前11,前12
		電力	三相交流における電圧・電流(相電圧、線間電圧、線電流)を説明できる。	2	
			電源および負荷の $\Delta$ -Y、Y- $\Delta$ 変換ができる。	2	
			対称三相回路の電圧・電流・電力の計算ができる。	2	

#### 評価割合

	試験	課題	合計
総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	20	5	25
専門的能力	40	15	55
分野横断的能力	10	10	20